

令和４年度 第１回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

- １．日 時 令和４年７月２２日（金）
- ２．出席状況 委 員 ８名（川染会長、明吉委員、江頭委員、小須田委員、小林委員、泉水委員、橋本委員、服部委員）
事務局 ５名（文化スポーツ課長、文化振興係４名）
- ３．傍聴人 傍聴人なし
- ４．議 題
 - １ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - ２ 令和３年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
令和３年度やまと芸術文化ホール来館者調査について
 - ３ 令和４年度文化芸術事業等の実施状況について
 - ４ その他
- ５．会議資料
 - 資料１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - 資料２－１・２ 令和３年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 資料２－３ 令和３年度やまと芸術文化ホール来館者調査について
 - 資料３ 令和４年度文化芸術事業等の実施状況について

【会議要旨】

１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について

【意見】

○委員

コロナウイルスにより、大和市だけではなく全国的に影響を受けて、演奏家や芸術家は大変苦労している。自身の文化活動もコロナの影響で大変である。そのような中で、文化芸術振興基本計画の進捗状況を分析し、数値だけで善し悪しを評価するのは難しいが、数値が上がっているものは、評価すべき。

○委員

コロナ禍でも、市民は文化に対して距離を置いているわけではない。実績評価の数値には表れないけれど、コロナが流行し、インターネットや SNS などで繋がり、家でも文化芸術に触れる機会ができ、幅広い年代の方が楽しんでいる。

つる舞の里歴史資料館の企画展に参加し、地元大和市でこのような芸術性の高い工芸品を見られるのは、素晴らしい。配布されたパンフレットの出来もよく、評判が良かった。

○委員

多くの人はコロナ禍で、遠出ができなくなり、身近な場所で文化芸術を鑑賞している。今回の数値を見るうえで、コロナ禍以前の数値にどのくらい近づいたかを中心に資料を見た。ある程度数値が上がったものは、努力を感じる。また、文化イベントは、遠い場所で開催される傾向にあるが、自分たちの生活に直結した場所でイベントが開催されることは重要であり、参加者が多くなる傾向がある。

オンラインやインターネットが普及し、ご高齢の方にどのくらい広まったかにも注目したが、まだ浸透していないように感じる。今後インターネットを使う世代が増えていき、ご高齢の方にも広がった場合、どんな形で表れるのか関心がある。事業の PR 手法についても、インターネットを通じて知り得たのか、今までの広告媒体で情報を知り得たのか、調べていく必要はある。

○委員

オンライン開催や配信はこのようなコロナの状況において、やむを得ない手段だったと思うが、オンラインが使えるようになったので、収束してもオンラインの活用は続けてほしい。

資料の数値の見方についてだが、目標2のモニタリング項目2「歴史文化施設の利用者数」の目標値を「入場者数を過去5年の最高値（61,200人）」設定しているが、いつからの5年間か。また、施策目標4のモニタリング項目2「イラストレーションデザインコンペの年間応募者数」の目標値を「過去5年の最高値（463人）」としているが、いつからの5年間か。

○事務局

計画を策定した平成31年度より、前5年間（平成26年度から平成30年度）の最高値を目標としている。

○委員

大和市も幅広く事業が行われていることが分かった。施策目標5「やまと芸術文化ホール友の会会員数」は累計か。それともその年度に利用した数値か。

○事務局

令和3年度までの累計である。友の会は、会員登録をすると先行予約の案内や、チケットを優先的に入手できるシステム。やまと芸術文化ホールが開館して5年が経ち、新規加入者は、年々、減少傾向にある。

○事務局

これまでは委員の皆さんに、市の事業を十分に周知できていなかった。今後は、事業のお知らせをするので、是非お越しいただいて、現場で感じたこと等を伺いたい。

2 令和3年度やまと芸術文化ホールの運営状況について

【意見】

○委員

今年公演したやまと子どもミュージカルについて、学校へのチラシやポスター等の配布は、市や教育委員会を通じて行っているのか。

○委員

主催者が直接学校に依頼をしている。

○事務局

学校に市内団体のチラシを配布するのは、PR効果はあるが、現実的には全てのイベントを配布されると学校は対応できない。教育委員会を通しての配布は行ってはならず、出演者の在籍している学校のPTAや父母会を通じて配布している。

○委員

公演はとても素晴らしかったのに、会場の席が埋まっていないのは寂しく感じた。子どもたちや教育関係者に見てもらおうとよいと思う。市が学校と団体の間に入ってチラシの配布を行った方がよい。

○事務局

やまと子どもミュージカルは毎年公演しており、コロナ前は2回公演のいずれも会場が満員になるほど大盛況だった。しかし、コロナが流行して以降、チケットの売れ行きが以前ほどよくないと伺っている。コロナが落ち着いたときに、どのくらい回復するか、様子を見ながら検討していきたい。

○委員

稼働率が令和2年度よりも上回る数値となり、文化活動が動き出したことが読み取れる。コロナが収まれば数値もさらに上がるだろう。2月13日「防災講座&ミニコンサート」に参加し、避難訓練を体験した。体験型のイベントはあまりないので、このような企画内容は良かった。今後も体験できる企画

を継続してほしい。

○委員

観客を動員するポイントとして、「知名度」、「親しみやすさ」、「無料」があげられる。例えば「大和市文化創造拠点シリウス開館5周年事業 小野リサコンサート」のように誰もが知っているアーティストが出演するイベントは人気がある。

コロナが流行し、定量的な評価ではなく、定性的な評価をした方がよい。8月に文化創造拠点等運営審議会で、市の評価に基づき審議会委員がシリウスやポラリスなどの指定管理者の評価をする。数値だけでは判断できない部分が多いので、定性的な評価にならざるを得ない。

コロナ禍では、SNS やオンラインが普及し、使い方を学んだ。コロナが収束しても継続するのがよい。

やまと芸術文化ホールのマルチスペースの稼働率が高い。実際に自身の活動で利用するが、小規模スペースで、鏡があり、マルチスペースは使い勝手がよい。シリウス内にマルチスペースのような使い方ができる施設が他にあると、より活性化するのではないか。

○委員

オンライン配信よりも、実際に足を運んで文化芸術を鑑賞してほしい。生で音楽を聞けば、会場だから感じられることや、音色の良さを学ぶことができる。コロナが流行して、オンライン配信にせざるを得ない状況も理解するが、市民の身近な場所で生の芸術文化に触れる機会を提供してほしい。

やまと芸術文化ホールの事業の来場者数が少ないと思うかもしれないが、公共的な事業は、来場者数は関係ないと思う。行政側は人が来る来ないに関係なく、市に必要な公演や、新しいジャンルの鑑賞機会の提供を行っている。民間のように人気の事業ばかりやっていると、文化芸術の質が高まらない。市民にモニタリングして、行政の考えで事業を行わないといけない。予算にも限りがあることを理解して、この場で審議しなければならない。

やまと芸術文化ホールが開館して5年になるが、開館当初は一流の海外アーティストやオーケストラが来て、観客は集まった。しかし、年数が経つにつれて、そのような一流アーティストは都内のホールなどで開催するようになる。1,000 席を埋める事業を開催するのは難しい。とくに出演者側は採算性を重視して事業を計画する。大和市は大和市に合った 1,000 席の事業を考えていくべき。芸術文化ホールは立地条件がよく、稼働率も高い。音響設備がよいなどの施設の特徴を活かして、質の高い事業を提供していくことが大切である。

○委員

大学の授業もオンラインでレッスンを行ったが、生徒の音質がわからない。オンラインで質の高いレッスンを行うには、相当な設備投資を行わないといけない。

一つ危惧していることは、足を運んで演奏会に行く人の高齢化。特に若い世代が会場で演奏会を鑑賞していない。我々は足を運んで見に行く環境で育っているが、現在は違ってきている。料金がかからないような YouTube 等のインターネットで鑑賞する。今後心配なのは、質の高い事業を計画し、実施しても若い世代が参加しないこと。年を取ってから、実際に公演などに足を運ぶことは考えられないため、若いうちに意識を変えさせる工夫をしなければならない。

○委員

今の大学生は、オンライン授業は倍速で視聴する。授業も大事なポイントだけ聞いているようだ。また、現在の学生や若い世代の特徴として話し方が速い。だから、オンラインの演奏会では、内容や音の質までしっかりと聞いていない。また、YouTube のように、オンラインで音楽鑑賞ができるのは、動画をアップする人がいるから鑑賞できる。

やまと芸術文化ホールの事業では、子どもを対象にしたよい事業をたくさん行っている。子どもが生で音楽を聞く、楽器に触れる機会を提供している。子どもの頃から生の音楽に触れる、自分がイベントに出演する経験をすることで、大人になっても音楽を鑑賞する習慣は続くだろう。

8月22日「バリアフリーコンサート」は、ハンディキャップのある方や、ベビーカー利用のお客様にスポットを当てており、幅広い市民に鑑賞機会を提供していることを評価する。このような内容は継続してほしい。10月17日「子どものためのピアノとドラムの楽器体験」については、子どもが楽器に触れる体験はとても大切である。西洋楽器だけではなく、三味線のような日本の楽器の仕組みを理解することも大切である。1月11日、12日、16日「メインホールでの演奏体験」は、市民から「ぜひ次回も開催してほしい」との声があるので、うまく活かしてほしい。1月23日「やまとシアター」は、映画館が閉館している中、シリウスで懐かしい映画の作品をワンコインで見られるのは良い。500円でお手頃に鑑賞できる企画は気軽に参加できるので良い。

9月12日「林真理子とオペラの企画」では、来場者アンケートで「図書館が併設するシリウスらしい企画」とあるので、複合施設の特徴を活かした企画は伸ばしていけるとよい。

市内には、外国籍の方が多いので、やまと世界料理の屋台村だけではなく、やまと芸術文化ホールとタイアップして企画できるとよいのではないかな。大和オリジナルのイベントができるのではないかな。芸術文化ホールのイベントへの参加者は、市内や横浜市在住者のみで、近隣の市町村からの参加がほとんどない。近隣市町村からも参加できるように、大和市でしか見ることのできない事業を考えていくことが良い。

3 令和4年度文化芸術事業等の実施状況について

○委員

大和市は、イベント名に昔からの名前が使われている。大和市文化祭や市民芸術祭のように、大和市の文化イベントは、イベント名に「祭」が使われているが、古いように感じる。県内の他市町村の公募展は、「はま展」「厚展」など、イベント名を工夫しているところが多い。大和市は図書館城下町など、新しいネーミングを取り入れている。大和市も若い世代が参加できるような事業名にしたらどうか。大和市も「祭」ではなく、「展」に変えた方がよい。市の事業をよく見に行くが、年々レベルは上がっている。大和市美術協会の「大和展」が市展のように見える。シリウスができたことをきっかけに新しい事業名にするのがよい。

○事務局

長い期間継続している事業の名称を変更するのは難しい。時代の変化によって、事業を継続すべきものと、変化を加えて進めていくものを考える必要がある。変化を加えて進めていくものは、名称の変更やオンラインを取り入れる等の工夫をしていかなければならない。

○委員

保護者の教育によって、文化芸術に触れる機会が左右される。保護者が文化芸術に興味ないと子どもが触れる機会がない。子供だけでなく、保護者にも文化芸術に触れられるように、行政と市民と一緒に環境をつくるべき。このままだと、子どもが文化芸術から離れて、高齢化を迎えてしまう。将来的に、芸術家が少なくなる。現状、文化に触れる年齢層が限定されており、大きな問題とを感じる。

○委員

20年、30年前の話であるが、少子高齢化を迎えるにあたり、いち早くヤマハ音楽教室が大人の音楽教室を開催したことがある。とても盛況で、すぐに満員となった。少子化が進むにつれて、保護者の子どもに対する教育はさらに熱が入る傾向にある。音楽教室でも保護者からのクレームに対応する専門の職員が配置されていると聞く。

○委員

最近の保護者には時間的、金銭的に余裕がない。保護者の空いている時間や土日で習えるものになり、たくさんの習い事をやらせたくても、できない。水泳や体操のような習い事が優先され、文化芸術の習い事は後回しになる。

○委員

国には、スポーツ庁があるのに、音楽庁はない。音楽力が低下すると国際競争力が下がると文献を見たことがある。将来、文化面で問題を抱えることになるのではないか。

○委員

伝統文化教室に参加し、親子詩吟教室を開催している。教室では「親子」で一緒に参加できる内容にしているが、親は来ない。保護者や教員でも詩吟を知らない人がいた。現在の学校教育では漢文は選択性になっているようだ。漢文に触れる機会が減ると詩吟を知る機会が減ってしまう。教育にも問題があるように感じる。伝統文化教室を運営している団体も生徒集めに苦労している。

4 その他

○委員

芸術文化ホールの受付窓口がシリウス入口にないのはなぜか。入口が近い方が、PR 効果があるのではないか。

○事務局

複合施設として設計する都合上、現在の位置に設置せざるを得なかった。来場者へのご案内や、わかりやすい案内版の表示等は今後も検討していく。